

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No.21

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日
平成21年3月31日

仙台地区創立 40 周年記念式・B-P 祭

B-P 卿誕生日：2 月 22 日

ボーイスカウトゆかりの地：仙台市立東六番丁小学校

仙台地区プログラム委員長 鈴木 譲司

2 月 22 日ベーデン・パウエル (B-P) 卿の誕生日に、仙台地区協議会創立 40 周年記念・世界友情の日・B-P 祭が、仙台ボーイスカウト発祥の地である東六番丁小学校にてスカウト及び保護者・指導者合わせて 200 名の参加。

当日は、寒さもやわらぎ、比較的穏やかな気候に恵まれ更にスカウトの熱気により、体育館は少し汗ばむくらいでありました。午前中は協議会長の挨拶の後、昨年行われた地区キャンポリーをスライドにて鑑賞しキャンポリーの楽しい思い出にひたりました。また、ベーデン・パウエル物語では生誕からその生涯を学ぶことが出来、スカウトの精神についてあらためて気付かされた次第です。またその精神が、現在も私達スカウトに携わる者たちに引き継がれていてさらに次世代に伝え継がなければならないことを感じました。今は天で見守る B-P 卿はどのような思いで見ているのでしょうか。

B-P 祭終了後、会場を市内のホテルに移し式典と祝賀会が開かれ、地区に貢献した関係者に野中地区協議会長より感謝状が贈られ、ご来賓の仙台市子供相談支援センター所長の菊地博様・郷家副連盟長・千田理事長からお祝いの言葉を頂きました。祝賀会は安達相談役の音頭で始まり、懐かしい雪中キャンプのスライド上映あり、40 年の月日の流れを美酒に酔いながら思い出話を語り続けるのでした。

会場の一角には、活動写真が多数展示され、その中に 40 周年を目前に他界された先輩達や団指導者の遺影が飾られ在りし日の故人の思い出話に目頭を熱くするのでした。



委員会紹介

ー総務委員会ー

県連盟広報委員会では、加盟員に県連盟の活動内容について理解を深めて戴くことを目的に『スカウト みやぎ』誌上で各種委員会の活動を紹介するコーナーを設けております。

回を重ねること今回で第3弾目となりましたが、本21号には菅野五郎総務委員長にご登場いただき総務委員会をご紹介します。ー広報ー

平成20年度総務委員会では事業目標として

- (1) ホームページの開設
- (2) 県連情報紙の的確な発行
- (3) 県連盟の資材倉庫整備と県連盟事務所の円滑な移転

の3項目を掲げて事業達成に取り組んでおりますが、現在の進捗状況などをお聞きしましたので、その概要を次の通りご紹介いたします。

1. 委員会活動について



全ての事業達成のためには委員会活動が原点となりますが、委員会活動は依然として出席率が芳しくなく、中には今年度一度も顔を見せない委員もいて、地区委員会の選出責任を疑問視しております。一滴の水も集まれば大きな力となります。県連盟の要となる総務委員会の使命達成のためには各委員の熱意と力が必要なのですが、至難の事に思っています。

2. ホームページの開設について

県連盟の全加盟員から熱く期待され、数年前からの重要懸案事項となっているホームページの立ち上げは、計画していた『プロジェクトチーム』の編成も人選が遅々として進まず具体的な進展はありません。これは、個人情報の取り組みに関する意見などもあって、情報発信について慎重な意見も寄せられており、現在これらの問題解決について鋭意調整中であります。

従って、当県連盟のホームページは他県連盟などから若干遅れをとっている現状となっております。

3. 県連情報紙の発行について

暫く発行されなかった県連情報紙は、ようやく発行の運びとなりましたが、当初目標として掲げていた20年度内5回発行には及ばず現在3回発行となっております。

今後は他の委員会などと密接に連携を強化して、更に内容の充実した県連情報紙の発刊に努めます。

4. 県連資材倉庫の整備と事務所移転について

(1) 多賀城倉庫の塗装補修は、当初の業者見積りは25万円でしたが、総務委員を中心とした関係者のご支援によって5月5・6日の両日に延べ7名で作業に当たり、4万円で仕上がりました。ご多忙のなか作業に参加していただいた方々に対し深く感謝申し上げます。お陰様で経費が大幅に浮いて大変嬉しく思っています。

(2) 事務所移転は、9月27・28日の2日間に亘って実施いたしました。各委員会の皆さま方からのご協力を得て、安全且つ無事に移転を完了いたし9月30日より計画通りに県連盟の業務を開始いたしております。



東部地区第3回ラウンドテーブル開催

東部地区コミッショナー 鈴木 美恵子

東部地区では地区協議会を毎年1月に開催しておりますが、隊指導者も多く集まることから協議会の時間の一部をラウンドテーブルに充てています。

今回1月17日(土)のラウンドテーブルでは、県連盟副コミッショナーの高橋 譲氏を講師に「信仰奨励章」についてのお話を頂きました。

スカウティングの組み立ての中で各部門の目標に信仰がどう繋がっているのか、信仰奨励章のねらい・取り組み・取得要件、「明確な信仰を持

つこと」の意味等、分かり易く説明して頂きました。

いつもですとラウンドテーブルの参加人数は、多くても10名位なのですが、当日は30名以上の参加があり、団運営に関わっている方々にも聞いて頂きましたので、スカウトに対しての取り組みがスムーズに行くのではと期待しています。体調不良を押してお越し頂きました高橋 譲氏に感謝申し上げます。

石巻地区合同スノーキャンプ

石巻第2団 ボーイ隊班長 小山 真司

僕は、1月24・25日に、石巻第6団と涌谷第1団の人と、鬼首へ、スノーキャンプへ行きました。

24日は、班対抗で、雪上運動会をしました。旗取り雪合戦や、障害物競走をして、他の団の人と仲良くなっていきました。

夜は、夕食のキムチ鍋を食べ、営火をしました。営火では、皆の将来の夢について、全員が話をしました。それで、皆がどんなことを考えているのか、わかったような気がしました。

25日午後は、雪像作りをしました。鬼首は、雪が固まっていなくて大変でした。

他の団の人と仲良くなれて、来年も行きたいと思いました。



新年大集会に参加して

白石第1団 ボーイ隊 遠藤 巧

1月10日に行われた白石第1団新年集会に参加しました。

集会では、ビーバー、カブ、ボーイ隊の代表が、今年の活動についての抱負を発表しました僕はボーイ隊を代表して、抱負を述べました。

その後、毎年恒例となっている神明社へ参拝に行き、白石城も見学して来ました。白石城から戻り、各隊のみんなで餅つきをしました。みんな上手くつけたので良かったです。

餅をつき終わったら、そのつきたての餅をみんなで食べました。みんなでついた餅はとてもおいしかったです。

僕は今年で卒隊なので、悔いの残らないようスカウト活動を頑張っていきたいです。



塩釜第1団 団スキー訓練 1月24・25日 ライザスキー場

塩釜第1団 団委員 小野 善晃

慣れないスキー板を履いて歩くのもままならなかった初心者も、2日目にはボーゲンでグレンデをスイスイ滑れるまでに上達し、楽しいスキー訓練になりました。

初日は曇り空の下、スカウトのレベルに応じた班分けを行い、夜には道路脇の雪壁にろうそくの明かりを灯し、幻想的な雰囲気の中でリーダーの夜話を聞く「雪灯籠の集い」を行いました。

例年であれば訓練2日目にスカウト全員を一番上まで連れて行き、山頂付近からの大パノラマを観せるのですが、今年はサポートが万全でなかったために全員を連れて行くことが出来なかったのが残念です。

今回の訓練で連れて行けなかったスカウトも次

回のスキー訓練では一番上まで上げて、遠く鳥海山までの素晴らしい展望を見せてあげたいと思います。



快拳！神道章に輝く

岩沼第1団ベンチャー隊では、この程十数年振りくらいに菅野宏幸君と大村健人君の2名のスカウトが、ボーイスカウト日本連盟より神道章が授与されました。

菅野君は平成19年8月に、岩手県一関市花泉町の御嶽神明社で神道章習得講習会に1泊2日の日程で参加しその後、約1ケ年の間に早朝から仙台市大崎八幡宮や竹駒神社など5社に行って、夫々の神社の宮司さんからご祭神や神社の造りなどを教わったり、神社の清掃奉仕活動をして報告書や感想文を纏めたものです。

一方、大村健人君は平成20年10月育成母体の竹駒神社で事前講習を終了の後、札幌市の北海道神宮で開催された神道章習得講習会に2泊3日の日程で参加し、講習会の最終テストでは100点満点をとって神社機関紙に披露されるなど熱心に受講したものが実を結んだものでした。講習会では北海道に於いての10月の早朝に実施した襖は大変な冷たさだった由。

講習会後の奉仕活動は、札幌市内では北海道神

岩沼第1団ベンチャー隊 隊長 渡邊 七郎

宮を始め3社、岩沼市の金蛇水神社や竹駒神社でご祭神についてのお話を拝聴した後、境内で落ち葉掃きなどの奉仕活動を重ねて事後研修を終了し、今回の授章となったものです。

今回の快拳を成し遂げた菅野、大村両君は初めての場所で多くの神職の方々から受けたご恩に感謝しての喜びもさること乍ら、十数年もの長い間神道章授章者を輩出しなかった当岩沼第1団としても、関係者一同の喜びも一入で、両君には夫々の人生の中での困難に立ち向かうことを期待している。



注)〈宗教章〉スカウトは自然の中で活躍するなかで人間の存在を超えた力や意思を感じることができ、その存在に対する感謝とおそれを抱いて生活することが「ちかい」の「神と（仏）に誠を尽くす…」ことの実践の第一歩であり、与えられた環境に感謝し、謙虚さを失わず生きることが「おきて」の「感謝の心をもつ」の実行につながります。将来の人生において出会うであろう様々な困難に立ち向かう「強い力」を与えてくれる可能性を持つ信仰、そして宗教への架け橋となるものが宗教章で、仏教、神道、キリスト教、金光教、世界救世教の5種類があります。各教宗派はボーイスカウト日本連盟が制定した基準に基づいて、信仰が基準に達したと認めた時に信仰章（今回は神道章）が授与されます。（ベンチャースカウトハンドブックより抜粋）

仙台第 28 団 発団 50 周年記念式典

仙台第 28 団 団委員長 今野 利夫

ボーイスカウト仙台第 28 団が発団したのは、1959（昭和 34）年 1 月 31 日、当時の中田中学校の教室を借りてスカウト 32 名で発団いたしました。

2009 年の今年は、発団 50 年の節目の年にあたります。これを記念して、1 月 31 日（土曜日）に「発団 50 周年記念式典」をこの 50 年間、さまざまな形でご支援いただいた関係者の皆さまのご出席をいただき、盛大に中田市民センターで挙行了いたしました。

式典は団委員長、育成会長挨拶の後、永年当団を支えてくれました仙台南ライオンズクラブ様や金成脩様、佐藤嘉郎様、川付知正様への感謝状が贈られました。その後、来賓の千田県連盟理事長、野中仙台地区協議会長、県・市議会議員の方々が祝辞を述べられました。

引き続き軽食を取りながらビンゴゲームが開催され、盛会のうちに式典を終了いたしました。

式典会場には、10 周年のときに発行した「ガリ版刷り」の「あゆみ」や、当時のユニフォーム、旗、写真など貴重な展示もあり、当時の思い出話で花が咲きました。

これまで数多く地域の方々に支えられてきた仙台第 28 団です。さらなる 50 年に向けて、引き続き皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



新春の集い

ーケッコーなお点前^{てまえ}でしたー

岩沼第 1 団カブ隊 隊長 原間井 昭彦

岩沼第 1 団カブ隊は、1 月 2 日竹駒神社境内でのユニセフ募金終了後、引き続いて 1 月 10 日恒例の『新春の集い』にスカウト 8 名が参加して、岩沼市西部地区の公民館で開催しました。

始めに、スカウトたちは心も新たに書初めで今年の活動目標を墨黒々と書き上げました。

そして、昨年の書初めで書いた目標と今年の目標との変化を、一人ずつ皆の前で披露して成長ぶりを発表しました。

次いで、裏千家の資格を持ったデンリーダーからお茶の作法を学びました。毎年のこととて、カブスカウトたちは「そんなの、とくに知ってるぜ」とばかりに、お茶の前にすすめられたお菓子を食べようとしたら、今年は予算節約でお干菓子ではなく 10 円饅頭であったため、お懐紙に饅頭の皮がくっついて上手に食べられずイライラ悪戦苦闘の巻。それでも、終りは「ケッコーなお点前^{てまえ}でした」

今度は、凧作りが終ったビーバースカウトたちにカブスカウトがお茶を点ててご馳走しました。

ビーバースカウトたちはお茶が初めての子が多く、作法など関係なく一気に飲んだら「あー」「にがー」の大騒ぎ。

更に隊長と副長の今年最初の試練が待ちました。カブスカウトから点てて貰ったお茶が、お茶^{なつめ}から“てんこ盛り”の抹茶がお茶碗に……。今年はリーダーも大変苦しい 1 年になりそうです。



「ようしつ。大成功。」

そのあとは簡単で、一人、また一人、とバランスを考えて乗っていった。(やったあ、あと一人、もしかしていけるんじゃない。でも、最後の一人は、一番体の大きい班長だし……慎重に、慎重に。) みんながどきどきしながら見守る中、ついに班長が乗った。やったあ、やったあ、大成功と思ったら、ぐらつ、いかたは大きくかたむいた。

「おつとつとつとつ。」

「あ、あぶない。みんな、そつちいけ。」

だれかがさげんだ。みんなは班長と反対側に移動した。今度は反対側がかたむいた。(やばい。) でもみんなが慎重に、バランスをとり、やつといかたは静かにとまった。

「あぶなかったねえ。」

「うん、うん、でもよかった、よかった。」

いよいよ、みんなで海へ出て息を合わせながらオールをこいだ。しかし、このオールでこぐ活動も、なかなか難しい。

「回ってる、回ってる。そつちもつとこげつてばつ。」

「もう少しそつちこいでつ。そうそう、その調子。」

みんなの力がまちまちだと、うまく動かなかったり、同じ場所をぐるぐる回ったりと、自由自在にはいかない。みんなの息を合わせて、力のかげんを合わせてこぐのがこつ。いろいろやっているうちに、だんだんこつが分かるようになり、うまくこげるようになってきたころ、私たちは、もう最初のころの私たちではなかった。年の差も、男女の区別も気にすることなく、何でも言えて、心の底から活動を楽しめる仲間になっていた。(こんなに思いつきり笑ったのは久しぶりだな。こんなに気持ちのいいのは初めてかな)

私は、この活動で、協力することの大切さ、協力して一つのことをなしとげたあとの喜びを初めて実感した。そして、なぜ先生や両親、大人の人たちが、「協力してやりなさいつ。」

と言うのが、分かった。大人の人たちは、協力してやりとげたあとの、満足感を味わって、それがどんなにすばらしいことなのか、どんなに大切なことなのかを知っているのだろう。だから、私たちにも知ってほしいのだろう。私は、今回のこの貴重な体

験から、これからは、自分から仲間とどんな協力し合って、みんなと、あの感動や達成感を共有したい。

広報委員会推薦文

このページは、パイロット版です。

＜スカウト宮城＞にスカウト運動に関わる他の方々、関心を持つ多くの方々にも紙面参加を、との企画に佐藤希海さんの作文、同校 中村道子先生ご指導のもと、宮城県連合小学校教育研究会国語研究部会収録掲載をご紹介します。

スカウト運動ご理解のかた、またご関心の方々にも今後幅広くご協力、ご指導を戴けることを期待してパイロット版として、今回渡邊広報副委員長からの推薦原稿として掲載致します。

関係諸子の関連感想提案を歓迎致します。

県連盟広報委員長



仲間がいたから……

岩沼市立三浦小学校

佐藤 希海

岩沼第一団

小学校生活最後の夏休み。

この夏休みは、私にとって特別な夏休みになった。それは、協力することのすばらしさを実感できた休みだったからだ。

「そっち結んで。」

「もつと引っぱって。」

「はい。」

夏休み、私は、ボーイスカウトのキャンポリーに参加したのだ。その中で、いちばん楽しく、やりがいがあり、貴重な体験になったのが、いかだを作って、それに乗るという活動だった。

いかだ作りに使った材料は、ベニヤ板一枚と発砲スチロールの浮きとロープだけである。私は初め、こんな物だけでいかだなんて作れるわけがないだろうと思っていた。ロープだけで浮きをとめるのは、絶対無理だと思ったからだ。きつと、浮きからロープがはずれて、ばらばらになってしま

うにちがいない。でも、一番年上の班長は、一人でもくもくと作業にとりかかった。そして、私と同じ六年生の男子の手を借りながら作っていた。私ともう一人の女子は、それを見ているだけで、何をすれば良いのかわからず、手も声も出せなかった。何をすればいいか聞こうと思っても、年上の班長にはきん張してなかなか聞けない。敬語を使って話しかけた方がいいのか、ふ通に話した方がいいのかなってことまで考えてしまい、聞くことも難しい。

「こうっ。」

大きな声が聞こえた。副長の声だった。副長とは、大人の人で私たちの指導をしてくれる人だ。(そんなに大きな声でどならなくても……別にさばろうと思っても何もしないわけではないんだから。)でも、そのことがきつかけになって、私もやってやろうじゃないかという気持ちがむくむくとわいてきて、自然に話ができるようになり、夢中になって手伝った。前にボーイスカウトの活動で習った、ロープの結び方を応用して、板と浮きをがっちり結んだり、浮きや板をおさえたりと、役割を分担してみん

な汗びっしょりになりながら、がんばった。そしてついに、いかだを海に浮かべるときが来た。(ちゃんと浮かぶかなあ、浮かばなかったらどうしよう。)みんな期待と不安が入りまじったような顔をしていた。どきどきしながら、いかだを海に出した。いかだは浮いた。ちゃんと浮いた。

「やったあ、ちゃんと浮いたぞ。」

みんながさげんだ。でも喜びもつかの間、いかだの上に人が乗ったしゅん間、いかだはかたむいた。

「ああつ。」

みんないつせいに声をあげた。

「だめだ。乗った人の方にかたむいちゃう。」それからみんなで知えをしぼって考えた。

「重い人から乗ってけばいいんじゃない。」

「それじゃあ、ひつくりかえるよ。」

「じゃあ、バランスとるように二人で一緒に乗ればいいんじゃない。」

「ああつ、それいいかも。」

さつそくやってみるようになった。

「せえのっ。」

みんながじつと見守った。

楽しかった雪あそび

石巻第2団 ビーバー隊 父兄 佐藤 かず子

1月の隊集会は、鳴子上野々スキー場で雪あそび、そり滑りを体験しました。新しく入隊したスカウトとも仲良くなれて、子供同志とても楽しく活動をしていました。

そり滑りや、雪の中に埋まっている宝物を探すゲーム「宝さがし」も楽しみました。スキーをする場所も低学年に合った、とてもベストな場所で親も安心して遊ぶ事ができました。

まだまだ遊び足りない感じで「今度の隊集会も雪あそびにしていね」と言われ、楽しい1日でした。



第3回北海道・東北ブロックキャンポリー（3HTC）に参加しましょう！

3HTC 特別委員会 横澤 繁

1. 3HTC の概要

- (1) 会 場 青森県東通（ひがしどおり）村 村営第2牧場
- (2) 期 間 平成21年7月25日（土）～7月29日（水） 5日間
- (3) 参加金 16,000円
- (4) 参加資格 ボーイ・ベンチャースカウト、指導者：平成21年度登録完了者。
- (5) 参加隊の編成 1隊30名編成（隊長1人、副長2人、副長補又は隊付2人、上級班長1人、スカウト6人×4個班）

2. 人員輸送方法（案）

- (1) バス輸送（45人乗りバス6台）
- (2) 行程 往路 7月24日（金）21:00着（21:30～22:00）22:30発 7月25日（土）7:00着
各地区——東北道・長者原SA（結団式）——三沢IC——会場
帰路 7月29日（水）12:00発 18:00着（18:20～18:50）19:00発
会場——三沢IC——東北道・長者原SA（解団式）——各地区

4. 3HTC 事務担当：横澤 繁 TEL/FAX：019-672-3723 携帯電話：080-6009-3856
（問合せ/連絡先）E-mail：syokosawa@hotmail.com
〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字郡山駅 261-1

県連盟派遣団シンボルマーク募集
募集締め切り：4月20日
応募作品送付先：宮城県連事務所

【予告】宮城県連盟年次総会開催

平成21年度年次総会は県北地区登米市迫町にて開催。

“より良いスカウティングを、より多くの青少年に”の目標達成のため、より多くのご参席を。

とき：平成21年5月9日（土）～10日（日）

受付開始：12時30分

開 会：13時00分

ところ：登米市迫公民館ホール

登米市迫町佐沼字中江2丁目6番地1

編集後記

桜の便りとともに第21号をお届けします。

編集委員会も都合40回は数えた事に。

少年活動の形に、静と動とのかねあいが重要と言う”決意は遅くとも、実行は迅速なれ”とかも静思に続く活動は大きな新鮮みと満足感が。今後の県連盟活動の方向付けを決める総会も間近。

スカウト活動のための一弛一急（活動のバランス）紹介。

スカウトみやぎ紙面にスカウト作の”活動”読書感想文などのページをとの事が編集委員での提案話題。（堀）

■ 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

■ 編集 宮城県連盟広報委員会

委員長 堀越祐寿

副委員長 渡辺七郎

委員長代行 柿沼富雄

委員 横澤達夫 大沼茂雄

砂押名湖 久光和中

〒985-0841

宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号

宮城県多賀城分庁舎内

TEL 022-355-6265/FAX 022-325-6267

■ 印刷 株式会社小野寺印刷所